

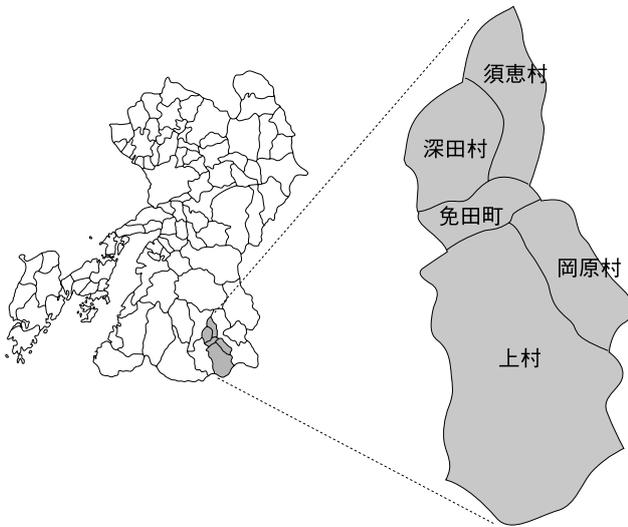
第1章 中球磨地域のすがた

1 地勢

中球磨地域は、人吉、球磨地域の中央部にあり、上村、免田町、岡原村、須恵村、深田村の1町4村で構成されています。面積は合わせて15,949haとなり、合併すると、県内で15番目の広さとなります。

地形は、球磨川が中央部を流れる盆地部分と、これを囲む白髪岳、黒原山などの山間地域からなります。

気候は、一年中を通じて比較的温暖多雨ですが、盆地であるため寒暖の差が大きく、内陸性の気候となっています。地目別土地利用面積でみると、田畑が半分以上を占めています。



◆地目別土地利用面積：平成10年

	畑	田	雑穀	雑草	牧草	山林	水田	池	川	河川敷	その他	計
須恵村	22.2	18.9	3.7	0.1	40.9	0.1	17.1	0.4				103.4
深田村	21.8	11.2	4.3	0.1	58.0	0.3	5.1	0.0				100.8
免田町												
岡原村												
上村												
中球磨計	44.0	30.1	8.0	0.2	98.9	0.4	22.2	0.4				204.2

資料：「熊本県統計年鑑」より作成

2 歴史

中球磨地域の歴史は古く、紀元前約11万年前の石器が発見されていますが、約2万数千年前には人が定住し、弥生時代には既に農耕社会が形成されていたといわれています。また、鎌倉時代の建久9年(1198年)に、地頭として相良氏が入荘以来35代、明治維新まで670年間比較的安定した統治を続けたため、中球磨地域を含む人吉球磨地域には平安期にまで遡る遺産を今に伝え、九州でも独特の文化圏を形成してきました。

昭和29年から昭和31年にかけての、いわゆる「昭和の大合併」の際には、5か町村において合併推進協議会が組織され、合併への機運が盛り上がりましたが、この時は合併は見送られました。

その一方で、昭和39年から昭和52年まで、中球磨五ヶ町村農業構造改善事業組合を設立し、県内でもいち早く圃場整備を進め、1,748haを区画整理し、主産業である農業の発展に大きく寄与しています。

また、し尿、ゴミ処理、火葬場、福祉等については、平成元年に「人吉球磨広域行政組合」を設立し、人吉球磨地域で一体的な広域行政に取り組んでいます。

このように、中球磨地域は、古くから歴史的、地理的に強い結び付きがあり、合併にこそ至りませんでした。既に多くの行政分野において地域で一体的な取り組みをしてきています。